

平成30年度
福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の
点検・評価報告書

令和元年8月

福井県教育委員会

— 目 次 —

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	組織および決算	
1	組織	3
2	課別決算額調	4
IV	平成30年度福井県教育委員会の活動状況	
1	教育委員会の会議開催等の状況	5
2	教育委員の活動状況	9
3	審議会等審議状況	11
4	教育委員会関係の許認可の状況	11
5	県立学校入学者選抜学力検査結果の状況	13
6	平成30年度実施 平成31年度公立学校教員採用選考試験の実施状況	15
V	平成30年度の教育関係施策の取組実績	
1	平成30年度の主な取組みについて	18
2	主要施策成果報告	19
VI	有識者からの意見	33

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下、「地教行法」という。）に基づき、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

[参 考]

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）（平成27年4月1日改正法施行）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本報告書「平成30年度 福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」（以下、「点検・評価報告書」という。）は、地教行法の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と県民の皆様に対する説明責任を果たすため、福井県教育振興基本計画に掲げた施策の実施結果を示すとともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価した結果を取りまとめたものです。

有識者の方に内容のご確認をいただき、その意見を併せて掲載しています。

本報告書により県民の皆様から、県の教育行政についてのご意見やご要望をいただき、今後の新たな教育関連施策に活かしていきたいと考えています。

Ⅱ 点検・評価について

1 対象期間

平成30年度（平成30年4月～平成31年3月）

2 点検・評価方法

(1) 点検・評価報告書の作成

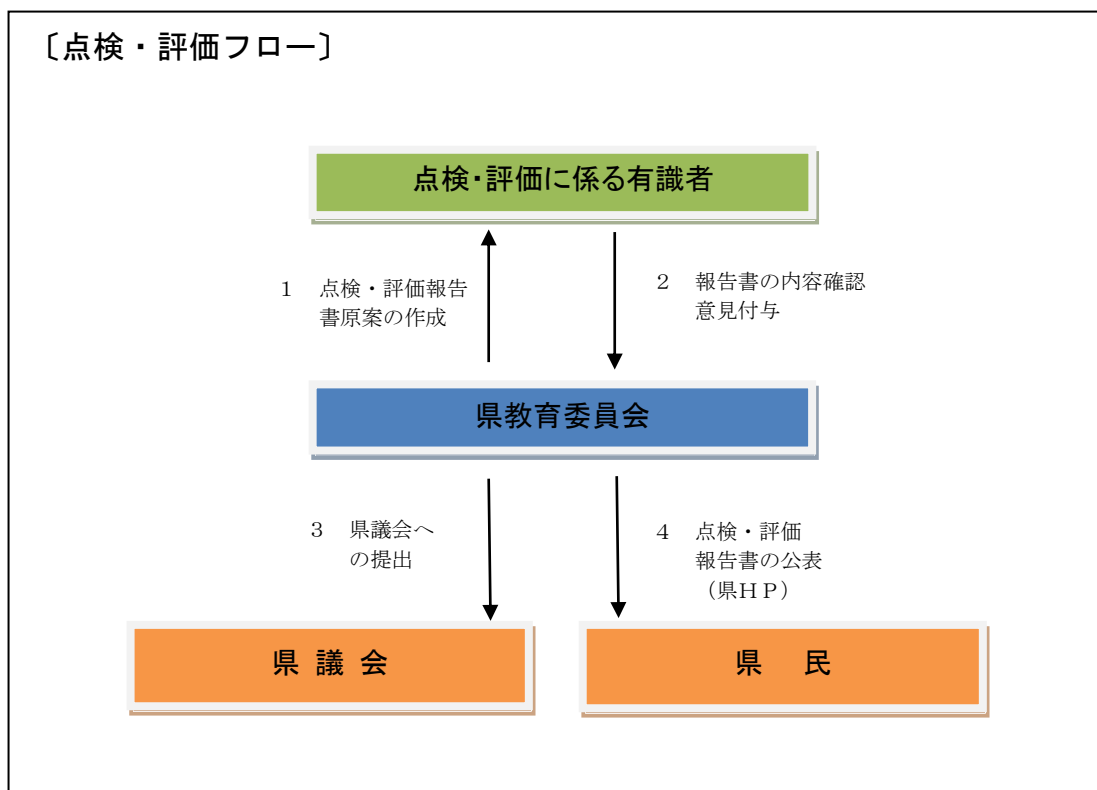
- ・ 教育委員会において点検・評価報告書案を作成

(2) 点検・評価報告書の確認、審査

- ・ 有識者による点検・評価報告書案の内容の確認および審査

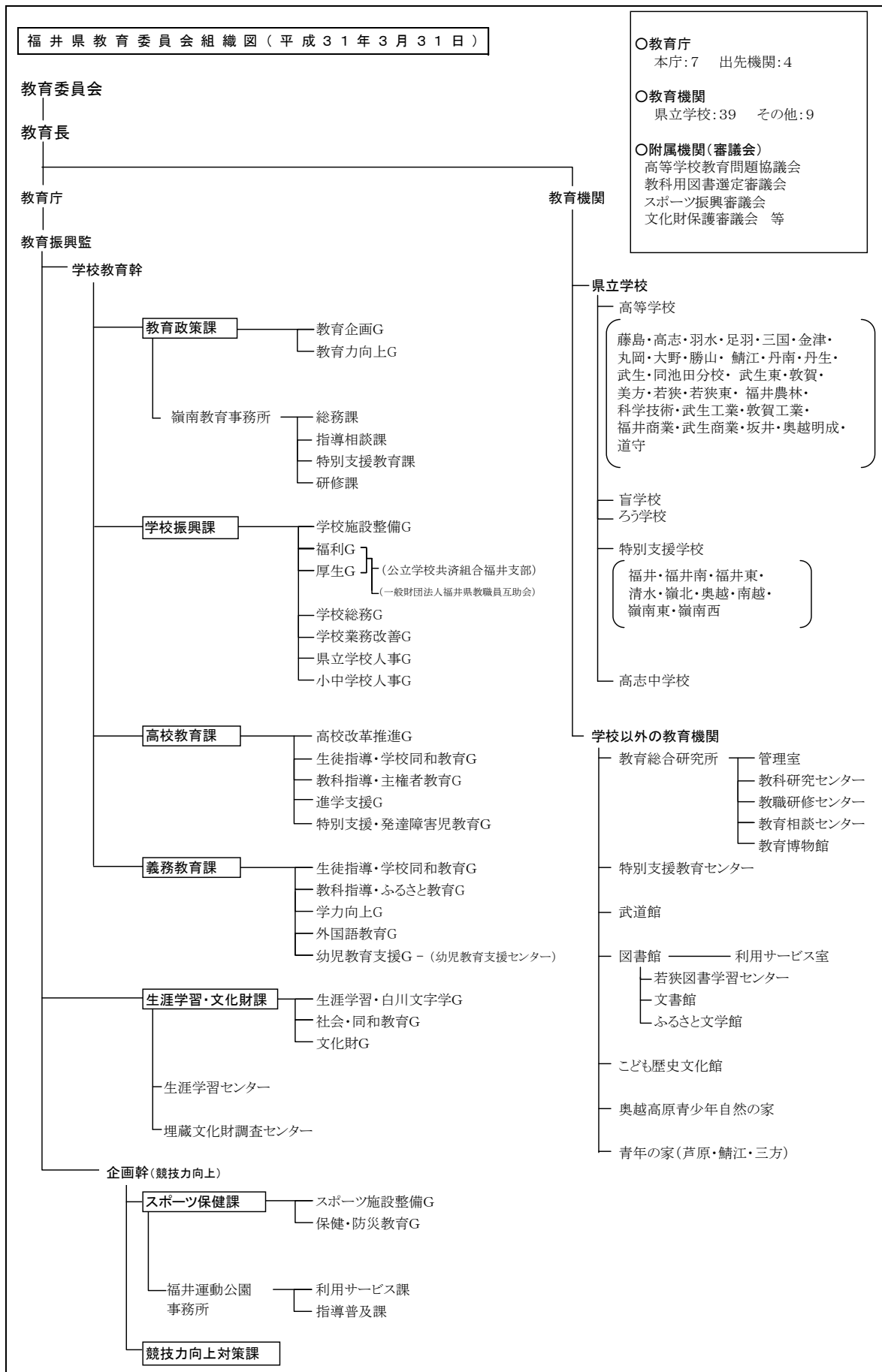
(3) 点検・評価結果の公表

- ・ 点検・評価報告書を県議会に提出するとともに、県のホームページにおいて公表



Ⅲ 組織および決算

1 組織



2 課別決算額調

(一般会計)

(1) 歳入

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	調定額B	収入済額C	(不納欠損額) 収入未済額	C/A	C/B
教育政策課	176,421	173,108	173,108	0	98.1	100.0
学校振興課	15,947,085	15,950,392	15,948,547	1,845	100.0	100.0
高校教育課	194,174	195,380	173,299	22,081	89.2	88.7
義務教育課	180,537	171,574	171,574	0	95.0	100.0
生涯学習・文化財課	390,920	380,270	380,270	0	97.3	100.0
保健体育課	622,988	604,302	604,302	0	97.0	100.0
計	17,512,125	17,475,026	17,451,100	23,926	99.7	99.9

(2) 歳出

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	支出済額B	翌年度繰越額C	不用額	B/A
教育政策課	3,322,644	3,303,991	0	18,653	99.4
学校振興課	75,171,906	74,819,612	0	352,294	99.5
高校教育課	489,989	442,704	0	47,285	90.3
義務教育課	1,457,900	1,424,233	0	33,667	97.7
生涯学習・文化財課	1,419,718	1,371,943	2,175	45,600	96.6
保健体育課	1,684,260	1,631,844	0	52,416	96.9
計	83,546,417	82,994,327	2,175	549,915	99.3

※ 計で四捨五入になるよう端数調整

IV 平成30年度福井県教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議開催等の状況

(1) 福井県教育委員会委員

(平成30年4月1日～平成30年12月24日)

	氏名	職業
教育長	東村健治	
委員(教育長職務代理者)	吉井正雄	医師
委員	西野里佳	元PTA役員
委員	八田嘉一郎	会社役員
委員	南部隆保	会社役員
委員	原公樹	僧侶

(平成30年12月25日～平成31年3月31日)

	氏名	職業
教育長	東村健治	
委員(教育長職務代理者)	吉井正雄	医師
委員	西野里佳	元PTA役員
委員	南部隆保	会社役員
委員	原公樹	僧侶
委員	山本直子	法人役員

(2) 教育委員会会議の開催状況

- ・ 開催回数 18回
- ・ 附議事項 56件

○第1079回（平成30年4月13日（金））

- ・ 福井県教科用図書選定審議会委員の任命について
- ・ いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
- ・ いじめ調査専門委員会委員の委嘱について

○第1080回（平成30年5月8日（火））

- ・ 平成31年度福井県公立学校教員採用選考試験について
- ・ 福井県社会教育委員の委嘱について
- ・ 福井県心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について
- ・ 福井県スポーツ推進審議会委員の任命について

○第1081回（平成30年6月11日（月））

- ・ 平成30年度福井県立高等学校後期編入学者選抜実施要項（定時制の課程および通信制の課程）の制定について
- ・ 平成31年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について
- ・ 福井県立歴史博物館運営協議会委員の任命について

○第1082回（平成30年7月12日（木））

- ・ 平成31年度福井県立高等学校入学者選抜における英検加点の取扱いの決定について
- ・ 平成31年度福井県立高等学校特色入学者選抜制度の創設について
- ・ 福井県スポーツ推進審議会委員の任命について

○第1083回（平成30年7月26日（水））

- ・ 平成31年度福井県公立学校教員採用選考試験第1次選考合否の決定について

○第1084回（平成30年7月30日（月））

- ・ 協議・報告事項のみ

○第1085回（平成30年8月20日（月））

- ・ 平成30年8月24日付け人事異動について

- 第1086回（平成30年8月22日（水））
 - ・平成31年度福井県立高志中学校入学者募集要項の制定について
 - ・平成31年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項等(定員等を除く)の制定について
 - ・平成29年度教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書について
 - ・平成31年度使用県立高等学校、県立特別支援学校高等部および県立中学校の教科用図書の採択について
 - ・福井県立恐竜博物館運営協議会委員の任命について

- 第1087回（平成30年9月26日（水））
 - ・平成30年度教育功労者表彰の被表彰者の決定について
 - ・審査請求に対する裁決について
 - ・平成31年度福井県公立学校教員採用選考試験の採用内定者の決定について

- 第1088回（平成30年10月24日（水））
 - ・平成31年度福井県立学校入学者募集定員について
 - ・平成31年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項ならびに福井県立特別支援学校の幼稚部および高等部の入学者選考実施要項の制定について

- 第1089回（平成30年11月20日（火））
 - ・若狭歴史博物館運営協議会委員の任命について
 - ・福井県教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について
 - ・平成31年度福井県公立小・中学校事務職員採用試験の採用内定者の決定について
 - ・平成31年度福井県公立学校校長・教頭任用選考試験の合格者の決定について
 - ・平成31年度教職員人事異動方針について

- 第1090回（平成30年12月19日（水））
 - ・平成30年度ふくい優秀教職員表彰被表彰者の決定について
 - ・平成30年度福井県学校保健・学校安全・学校給食表彰被表彰者の決定について
 - ・平成31年1月1日付け人事異動について

- 第1091回（平成30年12月27日（木））
 - ・教職員の懲戒処分について

- 第1092回（平成31年1月23日（水））
 - ・福井県いじめ防止基本方針の改訂について
 - ・南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者の決定について

○第1093回（平成31年2月1日（金））

- ・教職員の懲戒処分について

○第1094回（平成31年2月6日（水））

- ・福井県学校業務改善方針の策定について
- ・部活動の在り方に関する方針の策定について
- ・福井県立学校職員定数条例の一部改正について
- ・市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
- ・福井フューチャーマイスタートップ賞受賞者の決定について
- ・福井県選手強化対策委員会委員の委嘱について
- ・授業名人の任命について
- ・平成31年度福井県公立学校再任用教職員採用内定者の決定について
- ・平成31年度福井県立学校寄宿舎指導員採用内定者の決定について

○第1095回（平成31年3月13日（水））

- ・福井県指定文化財の指定について
- ・福井県教育委員会行政組織規則等の一部改正について
- ・福井県奨学育英基金管理規則の一部改正について
- ・平成30年度漢字指導者の認定について
- ・平成31年4月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職の人事異動について
- ・平成31年度公立小中学校校長・教頭および県立学校校長・教頭の人事異動について

○第1096回（平成31年3月20日（水））

- ・福井県教育委員会教職員免許に関する規則の一部改正について
- ・福井県立図書館規則の一部改正について
- ・福井県立武道館の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・審査請求に対する裁決について

2 教育委員の活動状況

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)
平成30年	
4月 2日	新採用教職員辞令交付式
4月13日	第1079回教育委員会
4月26日	市町教育委員会連絡協議会総会
5月 8日	第1080回教育委員会
5月15日	第1回ふくいの教育振興推進会議
5月30日	県市町女性教育委員の会
5月31日	第2回ふくいの教育振興推進会議
6月11日	第1081回教育委員会
7月 4日	学校視察 (三方小学校、嶺南東特別支援学校)
7月10日	学校視察 (国高小学校)
7月11日	全国高等学校総体・競技別選手権大会 福井県選手団結団式
7月12日	学校視察 (湊小学校)、第1082回教育委員会
7月17日	学校視察 (福井特別支援学校)
7月18日	学校視察 (嶺北特別支援学校)
7月23日、24日	全国都道府県教育委員会連合会平成31年度第1回総会
7月26日	第1083回教育委員会
7月30日	第1084回教育委員会
7月31日	東海インターハイ視察
8月 1日、2日	
8月 7日、8日 9日、10日	教員採用試験面接
8月20日	第1085回教育委員会
8月24日	第1086回教育委員会
8月30日	福井しあわせ元気国体2018福井県選手団結団・壮行式
9月11日	福井しあわせ元気国体視察
9月18日	第3回ふくいの教育振興推進会議学校視察 (春山小、明道中、藤島高)
9月26日	第1087回教育委員会
9月29日	福井しあわせ元気国体開会式、懇談会
9月30日	福井しあわせ元気国体視察
10月 2日、7日	
10月 9日	福井しあわせ元気国体閉会式
10月13日、14日、15日	第18回全国障害者スポーツ大会開会式、競技視察、閉会式
10月24日	第1088回教育委員会
10月25日	平成30年度 都道府県・指定都市教育委員研究協議会
10月29日、30日、31日	管理職任用選考試験面接
11月 1日	永年勤続教職員表彰

11月 7日	教育委員会70周年記念式典
11月13日、14日	東海北陸ブロック教育委員全員協議会
11月19日	第3回ふくいの教育振興推進会議
11月20日	第1089回教育委員会
11月22日	学校視察（上庄中学校）
11月26日	学校視察（福井農林高校）
11月27日	第73回国民体育大会入賞表彰式、祝勝会
12月18日	学校視察（武生西小学校）
12月20日	第1090回教育委員会、総合教育会議
12月26日	辞令交付式
12月27日	第1091回教育委員会
平成31年	
1月17日	第5回ふくいの教育振興推進会議
1月23日	第1092回教育委員会
1月27日	全国都道府県教育委員会連合会第2回総会
2月 1日	第6回ふくいの教育振興推進会議 第1093回教育委員会
2月 6日	第1094回教育委員会
2月26日	優秀教職員表彰式、学校保健等表彰式
3月 1日	県立学校卒業式（若狭、坂井、武生東、勝山、高志）
3月 8日	県立学校卒業式（清水特支、奥越特支）
3月13日	第1095回教育委員会
3月14日	県立学校卒業式（南越特支）
3月15日	県立学校卒業式（嶺南西特支）
3月20日	第1096回教育委員会
3月26日	授業名人任命式、漢字指導者認定書授与式
3月29日	永年勤続退職教職員辞令交付式・表彰式

※ 教育長単独での活動の記載は省略してあります。

3 審議会等審議状況

名 称	委員数	会議開催数	件 名	種 別	年月日
福井県心身障害児就学指導委員会	20	3	県立特別支援学校の該当児判断について	審議	30. 6. 15 30. 9. 14 30. 12. 12
福井県教科用図書選定審議会	19	3	義務教育諸学校で使用する教科用図書について	審議・答申	30. 4. 24 30. 5. 23 30. 6. 5
福井県文化財保護審議会	15	3	県指定の現地調査依頼について 指定文化財の諮問について 指定文化財の答申について	審議・諮問・協議・答申	30. 5. 29 30. 12. 27 31. 3. 6
福井県社会教育委員会議	10	1	地域コミュニティの持続のために期待される社会教育の役割について	審議	31. 2. 6
国民体育大会福井県選手強化対策委員会	13	1	第74回国民体育大会（茨木国体）に向けた強化方針について 第74回国民体育大会（茨木国体）年間計画について （選手強化対策委員会・強化推進会議）	協議	31. 3. 7

4 教育委員会関係の許認可の状況

(1) 教育職員免許状の授与等（平成30年度）

区分	専修免許状	1種免許状	2種免許状	特別免許状	臨時免許状	合 計
小学校	39	97	35	0	35	206
中学校	45	129	18	1	5	198
高等学校	48	204	0	2	45	299
特別支援学校	5	35	46	0	12	98
幼稚園	4	85	155	0	5	249
養護教員	0	13	3	0	10	26
栄養教員	0	6	0	0	0	6
自立教科等	0	0	0	0	0	0
合 計	141	569	257	3	112	1082

(2) 文化財の指定状況

平成30年度においては、有形文化財（建造物・絵図等）11件、無形民俗文化財1件を新たに県文化財に指定しました。

また、2件が新たに国重要文化財等に指定されました。

<指定文化財の現状>

平成31年3月31日現在

区 分	国指定		国選定	国選択	国登録	県指定	
	国 宝 特 別	重 文 国指定					
有 形 文化財	建造物	2	27			193	30
	絵 画		14				75
	彫 刻		35				80
	工芸品	3	8			1	28
	書跡・典籍・古文書	1	14				21
	考古資料		5				16
	歴史資料		3				6
	計	6	106			194	256
無 形 文化財	芸 能						
	工芸技術		2				4
	計		2				4
民 俗 文化財	有形民俗文化財		1			1	9
	無形民俗文化財		5		12		65
	計		6		12	1	74
史跡・名勝・ 天然記念物	史 跡	1	24				29
	名 勝	1	14			2	7
	天然記念物	4	17			1	33
	名勝天然記念物		1				
	計	6	56			3	69
重要伝統的建造物群保存地区				2			
選定保存技術							
合 計		12	170				
		182		2	12	198	403

(3) 銃砲刀剣類の登録状況

銃砲刀剣類所持等取締法に基づき、審査会を開催し、登録証の交付等をおこなってまいりました。

登録証交付	63	件
登録証再交付	23	件
所有者変更	239	件

(4) 教育委員会所管の公益法人

22法人（平成31年3月31日現在）

新制度移行法人（公益財団法人11 公益社団法人1 一般財団法人8
一般社団法人2）

5 平成31年度県立学校入学者選抜学力検査結果の状況

(1) 県立高等学校

推薦入学、連携型中高一貫教育校入学者選抜、第1次学力検査および第2次学力検査の課程別の合格者数は、表1のとおりです。また、全日制の第1次の学力検査合格者3,868人（前年度3,977人）に関する教科別の平均点は、表2のとおりです。

表1 課程別の合格者数

※（ ）内は前年度実績

	全 日 制	定 時 制	合 計
推薦入学によるもの	544(644) ※（ ）内は体芸推薦を除く。		544 (644) ※（ ）内は体芸推薦を除く。
特色選抜によるもの	226 (235) ※（ ）内は体芸推薦によるもの		226 (235) ※（ ）内は体芸推薦によるもの
連携型中高一貫教育校入学者選抜によるもの	88(90)		88(90)
1次学力検査によるもの	3,868(3,977)	168(159)	4,036(4,136)
2次学力検査によるもの	18(18)	13(28)	31(46)
計	4,744 (4,964)	181(187)	4,925(5,151)
充足率	97.9%(97.5%)	51.7%(39.0%)	94.8%(92.4%)

<参 考>

募集定員	5,092(5,345)	480(460)	5,572(5,805)
------	--------------	----------	--------------

表 2 教科別の平均点

	選択問題 A	選択問題 B
英 語	40.4(40.9)	63.9(57.8)
数 学	50.4(53.0)	69.8(58.6)
	共通	
国 語	57.1(61.9)	
社 会	57.4(55.4)	
理 科	49.9(47.5)	
総 点	283.1(275.4)	

※英語および数学は大問 4～6 問のうち 1～2 問を次の 2 種類の選択問題として実施

A：基礎力を問う設問の割合が多い問題（選択した合格者 1,362 人）

B：記述・論述型の設問の割合が多い問題（選択した合格者 2,506 人）

※英語の平均点には実用英語検定試験取得による加点は含まれていない。

(2) 県立中学校

平成 27 年度に開学した高志中学校の入学者選抜の受験の状況は、表 3 のとおりです。また、適性検査等の結果は表 4 のとおりです。

表 3 受験の状況

募集定員	出願者数	受験者数	合格者数
90	328	327	90

表 4 適性検査等の結果

	配点	平均点
適性検査 I	100	40.3
適性検査 II	100	50.2
適性検査 III	100	46.4
作 文	50	36.8
合 計	350	173.8

6 平成30年度実施 平成31年度公立学校教員採用選考試験の実施状況

第1次選考試験

試験期日および場所

期 日 等	場 所
平成30年7月14日(土) 一般教養・教職専門・教科等専門(小学校、 中学技術、高等学校各教科、養護教諭、栄 養教諭)	福井県立高志高等学校 (福井市御幸2丁目25-8) 【小学校実技(水泳)・中高音楽実技】
平成30年7月15日(日) 教科等専門(中高一括で行う教科、特別支 援学校)	福井市旭小学校 (福井市手寄2丁目2-5)

第2次選考試験

試験期日および場所

期 日 等	場 所
平成30年8月6日(月) 適性検査、小論文 平成31年度大学院特別選考 適性検査、個人面接 スポーツ・芸術特別選考 適性検査、小論文、個人面接 教育エキスパート特別選考 小論文、個人面接 盲学校(高等部)保健医療科担当教員特別 選考 教科等専門、個人面接	福井県立高志高等学校 (福井市御幸2丁目25-8)
平成30年8月7日(火)～10日(金) 個人面接、集団討論	

《 教員採用試験の改善について 》

優秀な人材の確保、選考過程の透明性、公平性を図るため、次のような改善を行いました。

- 優秀な人材の確保
 - < 18年度から実施 >
 - ・受験資格を60歳未満に拡大
 - ・講師経験者の1次選考免除を導入
 - < 19年度から実施 >
 - ・2次選考において、場面指導を導入
 - ・国際貢献活動経験者の1次選考免除を導入

< 20年度から実施 >

- ・大学院修士課程修了時の特別選考を導入

< 21年度から実施 >

- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）
- ・「音楽」「美術」を含む全教科での筆記試験の実施

< 23年度から実施 >

- ・スポーツ特別選考の実施

< 25年度から実施 >

- ・従来の一括募集を校種・教科別の募集に変更
- ・2つの校種・教科を併願できるように変更
- ・校種・教科の専門試験を1次選考で実施（全ての受験者が専門試験を受験）
- ・2次選考の「場面指導」を「集団討論」に変更
- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）

< 27年度から実施 >

- ・特別選考の導入①スポーツ・芸術特別選考
②教育エキスパート特別選考
③グローバル教育特別選考

< 28年度から実施 >

- ・特別選考の導入①スポーツ・芸術特別選考
②教育エキスパート特別選考
 専門教育分野
 英語教育分野

○ 受験者に対する情報の提供

< 20年度から実施 >

- ・2次選考の不合格者に対して、成績をA、B、Cの三段階で通知
- ・試験問題の持ち帰りと、解答例・配点の公表（自己採点可能）
- ・個人情報開示請求に基づき、以下の情報を開示
 1次選考、2次選考における筆記試験、実技試験、面接、作文の点数
- ・筆記試験、実技試験、面接、作文の配点ならびに評価項目など選考基準をホームページで公開
- ・1次選考合格者、最終合格者について、合否結果通知の発送に併せて、ホームページでも受験番号を公表

< 21年度から実施 >

- ・判定基準をホームページで事前発表
- ・解答例、設問別配点をホームページに掲載（自己採点可能）
- ・不合格者のうち希望者に筆記試験、実技、作文、面接の各点数および合計点数を通知

< 26年度から実施 >

- ・不合格者全員に筆記試験、実技、作文、面接の各点数および合計点数を通知

○ 選考過程等の改善

< 20年度から実施 >

- ・改ざん等の不正防止のため、担当部署以外の行政職員による答案や面接時の個票と選考資料との突き合わせ点検実施
- ・民間有識者による、選考手順や選考内容の点検、抽出データによる答案等の元データと選考資料データの突合

< 21年度から実施 >

- ・実技試験において、受験番号にかわり整理番号の使用

< 24年度から実施 >

- ・電子申請による受付

< 26年度から実施 >

- ・一般教養の試験において、マークシート方式を導入

< 27年度から実施 >

- ・小学校筆記試験に外国語のリスニングテストを導入
- ・一般教養に加え、教職専門の試験において、マークシート方式を導入

V 平成30年度の教育関係施策の取組実績

1 平成30年度的主要な取組について

- ・大学進学希望者が多い普通科高校10校（藤島、高志、羽水、金津、大野、勝山、武生、武生東、敦賀、若狭）に、校長のリーダーシップの下、教科・科目ごとに授業改善を推進していく授業力向上リーダーを設置し、学校全体の授業のレベルアップを図りました。
- ・小・中学校の優れた教材や取組をまとめた教材・評価問題集、学校マネジメント集を作成するとともに、全校の教科担当、管理職を対象に研修を実施しました。また、指導主事の継続的な学校訪問も実施し、教員の指導力向上を図りました。
- ・中・高校生の吹奏楽活動の充実を図るため、県外プロ指揮者等による技術指導を中学56校、高校21校で実施するとともに、大型楽器の整備等を実施しました。
- ・全小中学校で外国語教育の早期化・教科化に向けた取組を国に先駆けて行い、県作成指導案や教材の配付と、その活用に関する研修を実施しました。また、県内7ブロックの小・中学校23校で、小中連携した外国語教育の充実に向けた公開授業を開催しました。中学校・高校では、授業における英語でのやり取りやディベートの導入、ALTの積極的な活用を推進し、話す力を含めた英語力の育成を図りました。

*CEFR A1 レベル相当以上（英検3級以上相当）の英語力を有する中学生

国目標：50% 達成状況：61.2%

*CEFR A2 レベル相当以上（英検準2級以上相当）の英語力を有する高校生

国目標：50% 達成状況：56.0%

- ・石塚左玄の訓えを学ぶ独自教材を活用し、全小・中学校において食育の授業を1クラス5回以上実施しました。また、本県の特産品など地場産食材を使用した給食および授業を、全小・中学校および特別支援学校において年3回実施し、食育を推進しました。
- ・「スポジョブふくい」や特別強化コーチとして確保した有力選手、ふるさと選手、成年アスリートおよびジュニアアスリートとしてこれまで強化してきた選手を中心に885名の福井県選手団で福井国体に臨み、天皇杯獲得に加え、はじめての皇后杯を獲得しました。

（有力選手確保数）

スポジョブふくい 目標：累計220名 達成状況：累計244名

特別強化コーチ 目標：累計100名 達成状況：累計108名

2 主要施策成果報告

(1) 主要事業の実施成果

(1) 教員自主研究活動支援事業		教育政策課			
[事業目的]	今後 10 年間で約 4 割の教員が退職する中、若手教員の育成を含む教員の授業力向上は急務であるため、教員の自主的な研究・研修活動を支援し、その成果を県内教員が共有することにより、指導力向上を図る。				
[事業内容]	① 若手教員研究グループの支援 ② 小・中・高教研の教科部会への支援 ③ 授業実践研究への支援 ④ 出版活動への支援 ⑤ 教職大学院派遣教員への支援				
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	①	8,540		8,540	
	②	4,784		4,784	
	③	2,213		2,213	
	④	791		791	
	計	18,302		18,302	
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	申請件数	149 件	147 件	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・若手教員 100 グループ、小・中・高校教員研究会 19 グループなど、133 グループの自主的な研究グループの活動を支援した。 ・教職大学院へ 14 人の教員を派遣した。 				

(2) ⑨教育ICT環境整備事業					教育政策課				
[事業目的]	ICT機器を効果的に活用し授業の効率化を図るとともに、新学習指導要領や大学入試改革に対応するため、県立高等学校のICT環境を整備する。								
[事業内容]	① 普通教室へのプロジェクター等の整備 ② 活用支援 ③ プロジェクター用教材の作成・共有の推進								
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源				
	①	130,151	117,716		12,435				
	②	3,992	3,266		726				
	計	134,143	120,982		13,161				
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績					
	活動 指標	ICT機器整備学校数	13校	13校					
	成果 指標	ICT用教材数	250	270					
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・30年度に整備した13校において、8割以上の教員がプロジェクターを活用し、5教科では4割以上のコマでプロジェクターを使った授業を行った。 ・自主研究事業で20の研究グループがプロジェクターを活用した教材開発を実施した。 								

(3) ⑩新たな部活動指導体制推進事業					学校振興課				
[事業目的]	教員の負担軽減を図るため、外部人材を活用した部活動指導体制への支援を実施する。								
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に代わって単独で部活動の指導や引率ができる部活動指導員等を中学校、高等学校に配置 ・部活動休養日の拡大や共同管理体制の導入を推進し、部活動指導を改善 								
[決算額] (単位：千円)		決算額	国庫	その他特定財源	一般財源				
		23,302	7,002		16,300				
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績					
	活動 指標	部活動指導員の配置校数	83校	46校					
	成果 指標	平日の休養日設定校数	101校	101校					
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・退職教員等の部活動指導員を中学校37校、高等学校9校に配置し、教員の負担軽減および部活動指導の改善を図ることができた。 ・今後、外部人材の増員により、部活動指導体制への支援を強化していく。 								

(4) 県立学校施設長寿命化対策事業		学校振興課			
[事業目的]	老朽化した県立学校施設について、大規模改修により施設の長寿命化対策を行い、生徒の学校生活における安全確保および環境改善を図る。				
[事業内容]	・ 建築後 35 年以上経過した県立学校施設を対象に、外壁や内装、各種設備など施設全体を改修				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	1,091,179	57,875	886,521	146,783	
[事業の目標 および効果]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校 1 棟、特別支援学校 3 棟について、大規模改修工事を実施した。 ・ 特別支援学校 4 棟の設計を実施した。 				
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模改修工事を実施し、生徒の学校生活における学習環境の改善や施設の安全確保が図られた。 ・ 元年度からは大規模改修の実施により、長寿命化を進めるとともに、時代に即した学習環境を備える学校を整備していく。 				

(5) ふるさと教育推進事業		高校教育課			
[事業目的]	中高生に対し福井の先人の生き方等を学ぶ「ふるさと教育」を進め、県民としての誇りを持ち、本県の魅力を発信できる人材を育成する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全中学、高校生に教材「ふるさと福井の先人 100 人」を配付し、道徳やホームルームの時間に活用 ・ 高校 1 年生に副教材「私のしあわせライフプラン」を配付し、家庭科授業で活用 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	3,009		88	2,921	
[事業の目標 および効果]	活動 指標	内 容	目 標	実 績	
		教材配付数	16,000 冊	16,000 冊	
[事業評価]	福井の先人について話し合いや発表を行い理解を深めることにより、本県の魅力を発信できる人材の育成が図られている。				

(6) ⑧高校生学力向上推進事業		高校教育課			
[事業目的]	生徒の進学希望を実現するため、教員の受験指導力や学校の進学指導体制を強化する。				
[事業内容]	⑧大学入試制度の変更に対応するための教員研修・生徒向け講演会の開催 ・高校入学時に生徒・保護者向け進学説明会を開催 ・生徒の学習意欲や学習状況を把握するための調査を実施 ・県内既卒生対象の学習支援体制を整備				
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
(単位：千円)	50,543	1,938	4,928	43,677	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	授業満足度	75%	77%	
	成果 指標	難関10大学合格者 (県立・現役)	110人	148人	
[事業評価]	生徒の学力向上や進路指導の充実に向けた活動により、より多くの生徒の進路志望実現が図られている。				

(7) 高度な職業教育推進事業		高校教育課			
[事業目的]	地元就職する高校生が産業界で活躍するためのスキルアップを応援し、社会から求められるニーズや技術進展に対応した実践的な専門教育の充実を図る。				
[事業内容]	・高校生が自ら地域の課題を調査し、解決策を提案、実行する地域活性化プロジェクトを実施 ・職業系高校の生徒に対し高難度有資格者による技術指導を実施 ・長期企業実習を職業系高校で実施 ・産業人材コーディネーターを配置し企業と生徒のマッチング支援等を強化 ・県内企業でのインターンシップを実施				
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
(単位：千円)	13,952	3,162	10	10,780	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	企業技術者等参画人数	75人	81人	
	成果 指標	高校卒業者の就職率	99.5%	99.9%	
[事業評価]	地元企業からの高難易度有資格者の招聘や生徒の短期・長期企業実習受入、技術指導などにより、生徒の学習意欲、技能の向上が図られている。				

(8) 福井フューチャーマイスター事業		高校教育課			
[事業目的]	県内職業系高校生の資格取得等に対する意欲向上を図り、地元企業に就職して活躍するためのスキルアップを促進するため、高校生の専門資格取得を支援する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の資格取得や企業実習等の実績に基づき認定を行う「福井フューチャーマイスター制度」を実施 専門資格の取得を支援（補助率 2/3【一般資格は 1/2】） 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	8,299			8,299	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	専門資格取得支援数	2,000回	2,305回	
	成果 指標	福井フューチャーマイスター認定者割合	85%	87%	
[事業評価]	地元企業の即戦力となる人材を育成するため、職業系高校生の資格取得を支援するとともに、福井フューチャーマイスターとして認定することにより、スキルアップが図られている。				

(9) 実践的農業教育強化事業		高校教育課			
[事業目的]	農業高校において、地域の農業法人や地元企業と連携した実習を行うとともに、経営感覚を備えた農業人材の育成を目指す。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> LED補光によるトマト等の栽培技術の実習研究（若狭東） 高糖度トマト・イチゴの栽培技術の実習研究（福井農林・坂井） 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	2,478			2,478	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	校外実習参加生徒数	450人	424人	
	成果 指標	農業関連企業等への就職者数	15人	16人	
[事業評価]	企業等との連携により、より農業の現場に近い環境で、最新の栽培知識や技術を学ぶことができ、生徒の学習意欲、技能の向上が図られている。				

(10) 高校生企業訪問推進事業		高校教育課			
[事業目的]	福井の職業および企業の魅力について学ぶことで、県外大学などに進学した後、県内に戻って働く若者を増やす。				
[事業内容]	・普通科系高校の1年生を対象に、夏休みの期間を活用して企業訪問を実施				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	1,636			1,636	
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	参加生徒数	700人	921人	
[事業評価]	ふるさと福井の職業や企業について学ぶとともに、県外の大学から福井に戻って就職した若手社員と意見交換を行うことにより、県内企業への関心を高めることができた。				

(11) 特別支援学校就労応援事業		高校教育課			
[事業目的]	特別な支援を必要とする生徒が行う職場実習でのサポートを充実し、地元企業への就労を促進する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ジョブコーチを配置し、生徒の職場実習の支援および求人開拓を強化 ・作業学習時の技術指導や職場実習時の受入を行う就労サポーター企業を認定 ・生徒が作業学習等で培った力を認定する「特別支援学校技能検定」を実施 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	10,946	3,852	1,134	5,960	
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	企業実習サポート実施 生徒数	60人	67人	
	成果 指標	サポートを実施した生 徒の就職内定率	70%	81%	
[事業評価]	学校ジョブコーチの配置等による就労支援の充実により、特別支援学校生徒の技能の向上や就労の促進が図られている。				

(12) 古典学習支援事業		義務教育課			
[事業目的]	福井にゆかりのある百人一首などを取り入れた独自教材を作成し、小中学生が古典にふれる機会を充実する。				
[事業内容]	・百人一首や古典、ことわざ、慣用句などの作品を掲載した「古典音読・暗唱ノート」の改訂版を作成し、小中学校の国語の授業や朝の会等で活用				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	1,614			1,614	
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	古典音読・暗唱ノート（改訂版）を配布した学校数	265 校	265 校	
	成果 指標	古典音読・暗唱ノート（改訂版）を活用した学校数	265 校	265 校	
[事業評価]	「古典音読・暗唱ノート」を全小中学校に配付し、授業や朝の会等で活用することにより、児童・生徒が古典にふれる機会を増やした。				

(13) 小中学校学力向上事業		義務教育課			
[事業目的]	各小中学校の優れた指導法をまとめた県独自教材を作成し、全小中学校の教員に対し研修会を行い、児童・生徒の学力向上を推進する。				
[事業内容]	・各学校独自に作成した教材や評価問題を集約した「教材・評価問題集」や「学校マネジメント集」を作成し、校長や教員を対象とした研修会を実施 ・各学校に講師（大学教授等）を招き、指導方法・教材づくりを研究				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	2,427		2,427		
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	教材・評価問題集を配布した学校数	265 校	265 校	
	成果 指標	教材・評価問題集を活用した学校数	265 校	265 校	
[事業評価]	「教材・評価問題集」、「学校マネジメント集」の更なる充実を図り、校長や担当教員の指導力向上を図っていく。				

(14) 芸術教育推進事業		義務教育課			
[事業目的]	音楽や美術など芸術面における体験活動を行い、児童・生徒の感性や表現力の向上を図る。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生および高校生の弦楽奏者の育成 ・小学校での童謡、唱歌の活用 ・日本画を活用した美術教育の推進 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	11,732		3,800	7,932	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	弦楽器講師 派遣回数	380 回	481 回	
	成果 指標	弦楽器奏者数	200 人	220 人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高合わせて 16 校を弦楽器推進校に指定し、基礎的な演奏技術の習得・向上を図るとともに、校外での発表や合同演奏の機会を積極的に設けた。 ・全小中学校および高校で水墨画や日本画を描く授業を行い、児童生徒の技能と表現力の向上を図った。 				

(15) 吹奏楽活動推進事業		義務教育課			
[事業目的]	中・高校生の吹奏楽活動のさらなる充実を図るため、県外プロ指揮者等による技術指導や大型楽器の整備など、吹奏楽部の活動を支援する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・プロオーケストラ指揮者などによる指導教員研修会を実施 ・高校生と中学生との合同練習会・演奏会を実施 ・大型楽器の購入を支援 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	38,919			38,919	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動 指標	中高合同練習 開催数	4 回	4 回	
	成果 指標	全国大会入賞 校数	2 校	0 校	目標数値は、31 年度末までの目標
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・高校（7 校）・中学校（19 校）を推進校に指定し、大型楽器の整備や高校生と中学生との合同練習会等を実施し、技術向上を図った。 ・推進校以外の学校においても、県内演奏家等の地域人材を派遣し、指導者や生徒の技術向上を図った。 				

(16) ㊦地域と進める体験推進事業		義務教育課			
[事業目的]	児童・生徒が地域の人々とともに、自ら企画・提案した体験学習を実施し、ふるさと福井に誇りや愛着を持つ人材を育成する。				
[事業内容]	・全小中学校で「地域コーディネーター」を委嘱し、児童・生徒が「地域コーディネーター」や地域の人々とともに行う体験学習やボランティア活動を支援 (1校 20万円を上限 県1/2、市町1/2)				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	24,722			24,722	
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	地域コーディネーターを配置した学校数	257校	257校	
	成果 指標	地域参画の体験活動を実施した学校数	257校	257校	
[事業評価]	県内すべての小中学校で地域コーディネーターを委嘱し、体験活動やボランティア活動の支援を行い、児童・生徒の体験活動などの充実を図った。				

(17) ㊦スクールカウンセラー配置事業		義務教育課			
[事業目的]	心理の専門的な知識を持つスクールカウンセラーを配置し、いじめ、不登校、暴力行為等の問題行動の未然防止や早期発見、早期解決を図る。				
[事業内容]	・教育総合研究所および小中学校にスクールカウンセラー90名を配置 児童生徒等へのカウンセリング、教職員・保護者への助言等を実施 事案に対する学校内連係・支援チームの構築・支援				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	112,293	37,431		74,862	
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	相談延べ件数	—	38,177件	
[事業評価]	相談内容が複雑な案件が増加しており、今後もスクールカウンセラーの増員や研修会を充実するなど、教育相談体制の強化を図っていく。				

(18) ㊦スクールソーシャルワーカー配置事業		義務教育課			
[事業目的]	社会福祉等の専門的な知識を持つスクールソーシャルワーカーを配置し、家庭環境、不登校、貧困、児童虐待等の課題を抱える児童生徒の修学支援、健全育成を図るため、関係機関と連携し、支援を行う。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・教育総合研究所および嶺南教育事務所、市町に対し、スクールソーシャルワーカー22名を配置 ・問題を抱える児童・生徒に対する家庭訪問を行い、必要に応じて、児童相談所等の福祉関係機関や警察など関係機関と連携し、家庭環境の改善を図る。 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	23,639	7,879		15,760	
[事業の目標 および効果]	内 容	目 標	実 績		
	活動指標	支援延べ件数	—	680件	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所や警察等の関係機関と連携し、児童・生徒を取り巻く環境の問題解決を図った。 ・家庭環境に問題を抱える児童・生徒が増加しており、今後もスクールソーシャルワーカーの増員や資質向上研修を行うとともに、関係機関と連携し、家庭環境の改善を図っていく。 				

(19) ㊦英語力向上事業		義務教育課			
[事業目的]	授業以外で英語に触れる機会を増加させるとともに海外語学研修等の実践的なプログラムにより、英語コミュニケーション能力を伸ばし、国際的に活躍する人材を育成する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語教科化を踏まえた指導案や評価問題など県独自教材の一部改訂 ・高校生を海外語学研修に派遣 ・小中学校および高等学校の教員を対象とした研修の実施 ・中高生を対象とした外部検定試験の受験補助 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	107,388	3,556	21,500	82,332	
[事業の目標 および効果]	内 容	目 標	実 績		
	活動指標	海外語学研修に参加した生徒数	100人	100人	
	成果指標	英検3級相当以上を取得した中学生	63.0%	61.2%	
		英検準2級相当以上を取得した高校生	52.5%	56.0%	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・県作成指導案、教材の活用法研修を行うことにより、教員の指導力向上を図り、児童・生徒の「話す力」の育成を目的とした授業改善を進めた。 ・授業内外でのALTの積極的な活用や海外語学研修における県独自の行程・研修プログラムにより、生徒が英語を使う機会を増やし、英語力の向上を図った。 				

(20) こども歴史文化館展示事業		生涯学習・文化財課			
[事業目的]	福井ゆかりの人物（先人・達人）の生き方や業績等を展示や講座、出前教室等により紹介し、郷土の歴史文化の理解を深め、福井に誇りをもった子どもを育てる。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・普及事業…各種イベント、出前教室等の実施 ・発掘事業(調査研究)…未開拓の人物情報の調査研究 ・資料収集事業…実物資料の収集等 ・特集事業…企画展の開催 				
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
(単位：千円)	21,143		38	21,105	
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	企画展開催回数	4 回	4 回	
	成果 指標	利用者数	60,000 人	66,835 人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・幕末明治福井 150 年博事業において、幕末、明治時代に活躍した松旭斎天一など福井の先人にスポットを当てた特別展を開催した。 ・夏目漱石の手紙や成績を記した手帳など貴重な歴史資料を発見、展示し、利用者の増加を図った。 				

(21) 文化財指定促進事業		生涯学習・文化財課			
[事業目的]	県民の財産である文化財を保存し、地域づくりや観光への活用を図るため、文化財の国指定等に向けた調査を推進する。				
[事業内容]	・建造物、民俗、古文書等の調査				
[決算額]	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
(単位：千円)	13,297	2,790		10,507	
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動 指標	現地調査件数	27 件	29 件	
	成果 指標	文化財指定件数	12 件	14 件	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・「金銀鍍菊花文散銅水瓶（越前市）」、「明通寺寄進札（小浜市）」の 2 件が国重要文化財に指定された。 ・「旧内山家住宅（大野市）」「北谷道具博物館（勝山市）」など 13 件が文化財として国登録・国選択された。 ・「絹本著色地藏十王図（越前市）」や「木造聖徳太子立像（永平寺町）」など、新たに 12 件を県の文化財に指定した。 				

(22) 「白川文字学」普及・研究促進 事業		生涯学習・文化財課			
[事業目的]	故白川静博士が確立した「白川文字学」を活用した本県独自の漢字教育を研究し、学校教育等で実践するとともに、その指導方法を県内外に広げ、普及を図る。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・「白川文字学」の県内外へ向けた普及活動 「第6回白川静漢字教育賞」の実施、白川文字学ゼミ公開講座、「白川文字学こども漢字教室」や「体験！福井の漢字学習」等出前講座の開催、白川文字学ニュースの発行 ・教員の指導力向上 「漢字指導者認定制度」の実施、白川博士の著作を読む研修会の開催、「間違えやすい漢字」教材の作成・配付 ・書写・書道教育の充実 書写・書道外部指導者の小・中・高校への派遣、筆使いの基本など全小中学校書写担当教員の指導力向上研修会の開催 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	9,927		100	9,827	
[事業の目標 および効果]		内 容	目 標	実 績	
	活動指標	出前講座の開催数	30回	25回	
	成果指標	漢字学習講座等への参加者数	3,500人	3,236人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・「第6回白川静漢字教育賞」表彰式において優秀事例の実践発表を行うとともに、ホームページ等で県内外に発信することで、指導方法の普及が図られた。 ・子どもが学校外で白川文字学を学ぶ「白川文字学こども漢字教室」を開催し、子どもの漢字に対する興味関心を高め、学習意欲の向上が図られた。 				

(23) ふるさと文学館事業		生涯学習・文化財課			
[事業目的]	ふるさと文学館において、福井ゆかりの作家や作品の魅力を伝える展示等を実施するほか、若者の創作活動を応援し、文学に親しむ機会を増やす。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展の開催 ・若い世代の創作活動を支援する文学ゼミや文学カフェ等の開催 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	27,340		39	27,301	
[事業の目標 および効果]		内 容	実 績	実 績	
	活動指標	企画展開催回数	3回	3回	
	成果指標	入館者数	65,000人	61,910人	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・幕末明治福井150年博事業として「幕末の福井を描いた小説」展等を開催した。 ・高校・大学の文芸部などが活動発表・交流する「文学フェスタ」の開催、俳句や小説などの創作講座等を開催し、文学ファンの増加を図った。 				

(24) 子どもの目と歯の健康プロジェクト事業				保健体育課		
[事業目的]	生活習慣を見直すことを通して、視力低下の進行を遅くするとともに、トレーニングによって視覚機能の改善を推進する。正しい歯みがきの仕方を身につけることや乳歯のむし歯治療を通して、永久歯のむし歯予防対策を促進する。					
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前の児童や保護者、小学校 1～2 年生の児童に対し、目の健康を守る生活習慣を定着させるためのチェックカード等を配布 ・全ての小中学校の教室に、目の健康を守る 3 カ条を掲示するとともに、目を休めるリフレッシュタイムや目の周りの筋肉を鍛えるビジョントレーニングを実施 ・小中学生を対象に、歯垢染色剤やデンタルミラー、リーフレット等を活用した正しい歯みがき教室を開催 ・小学校 1、4 年生に歯科二次検診を実施（実施主体 市町 補助率 1/2） 					
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源		
	4,417			4,417		
[事業の目標 および効果]	内 容			目標	実績	
	活動指標	歯みがき教室受講率		100%	100%	
	成果指標	むし歯のない（処置完了者含む）小学生の割合		73.6%	74.2%	
[事業評価]	全小中学校においてリフレッシュタイムとビジョントレーニングを実施するとともに、近視予防につながる生活習慣の定着を図った。小中学校で養護教諭等による歯垢染色剤を活用した歯みがき教室を行い、歯みがき習慣の定着を図るとともに、歯科二次検診を通じてむし歯治療の勧奨機会を増やし、むし歯のない小学生の割合が向上した（H29:72.2%→H30:74.2%）。					

(25) ふくいの和食教育推進事業				保健体育課		
[事業目的]	県独自の食育教材を活用した食育の授業を行うとともに、地場産食材や伝承料理を取り入れた給食の提供を通して、和食教育を推進する。					
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・石塚左玄の訓えを学ぶ食育教材「食育チャレンジ」を活用した食育の実施 ・学校給食調理コンテストを開催 					
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源		
	765			765		
[事業の目標 および効果]	内 容			目標	実績	
	活動指標	食育授業の実施回数（年）		5 回	5 回	
	成果指標	給食を食べ残さない児童生徒の割合		—	85.3%	
[事業評価]	栄養教諭がプロの料理人と協働で開発してきた地場産給食の提供、石塚左玄の訓えを学ぶ食育教材を活用した食育授業の実施や学校給食調理コンテストなどを通して、和食教育の推進を図った。					

(26) ⑧ふくいの地場産学校給食推進事業		保健体育課			
[事業目的]	本県の特産品など地場産食材を使用した学校給食の提供と栄養教諭等による食に関する指導を通して、食育を推進する。				
[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の特産品など地場産食材を使用した給食を提供し、それらを教材とした授業を実施（地域の農林水産業や食文化への理解を深め、ふるさと福井を誇りに思う心を育む） ・「福井地場産給食」実施のための掛かり増し費用を補助（実施回数：年3回） 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	27,882			27,882	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動指標	学校給食地場産食材使用率	50%	43.6%	
	成果指標	事業実施校	100%	100%	
[事業評価]	本県の特産食材など地場産食材を使用した学校給食の提供と、それらを教材とした食育授業、農業体験など年3回テーマをもとに実施し、児童生徒のふるさと福井を誇りに思う心の育成を図った。				

(27) ⑨競技力向上対策事業		保健体育課			
[事業目的]	国民体育大会および各種スポーツ大会において本県選手が優秀な成績を収められるよう、計画的に競技力向上対策を実施し、競技力の向上とスポーツ振興を図る。				
[事業内容]	各競技団体における選手強化のための強化合宿等に要する経費を支援 <ul style="list-style-type: none"> ・補助対象者：各競技団体 ・対象経費：強化合宿等に要する経費 ・補助率：定額 				
[決算額] (単位：千円)	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源	
	1,373,387		562,191	811,196	
[事業の目標 および効果]		内 容	目標	実績	
	活動指標	選手確保（スポジョブふくい）	220名	244名	
	成果指標	国体順位	優勝	優勝	
[事業評価]	<ul style="list-style-type: none"> ・本県選手が国民体育大会をはじめとする大会において優秀な成績を収めることで、県民に夢と感動を与え、スポーツの普及・振興等にも寄与している。 ・「福井しあわせ元気国体」において総合優勝を果たし、今後は、福井国体のレガシー（有形・無形の「経験、人材、ノウハウ」）を今後の国体に出来る限り引き継いでいく。 				

VI 有識者からの意見

○ 北陸大学 教授 藤岡 慎二

時代の変化の速さを感じる1年だった。AIやVUCA時代*1を迎え、求められる人材が変化してきたことに対する議論や見解、実践が国内外で散見された。また、教育内容の変化が必然であることも議論された。激変する世界の状況に応じて、いかなる教育を講ずるべきか今後も継続的に議論が必要だ。福井県は、先見の明を持った教育先進県であると筆者は認識している。関係者の方々のこれまでのご尽力に敬意を表したい。

平成27年度に策定された「福井県教育振興基本計画」は実施4年目に入った。本計画における10の基本方針に基づき、施策の方向性や内容、教育委員会や各種審議会、または現場の教員の方々の活発な活動状況が本報告書に記されている。国内外の変化に対応すべく、課題に対して迅速かつ綿密に対応策を考え、施策化してきたことが分かり、各現場の関係者、教員の方々の弛まぬ努力が滲み出る内容に対して、尊敬の念を示したい。

筆者が考える今後の教育現場における課題を3つ挙げ、それらに福井県の施策が如何に対応しているかをここで述べていく。

① 教員の働き方改革

教員の多忙化が叫ばれて久しい昨今、企業では働き方改革が進んでいるが、公務員や教員では取組が進んでいない状況が散見される。「教育ICT環境整備事業」「新たな部活動指導体制推進事業」「スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー配置事業」などを通じて、授業の効率化や部活動のアウトソーシング、専門性を活かした児童生徒の課題解決を図っている。

今後の激変する世界・社会・地域の状況に応じて、教育現場も変化しなければならない。しかし、変革は何かを付け足したり、増やしたりするだけでは成立しない。もし関わる人数が同じであれば、「捨てる」→「減らす」→「増やす」→「加える」の4段階で立ち向かわなければ、変革を実現することは難しい。特に4段階のうちの「捨てる」→「減らす」は現場のみならず、管理職や上位組織の意思決定が必要である。それを福井県は率先して実施しており、捻出された時間を如何に変革に活かしていくかが今後のポイントとなる。

② 教育観・学力観の変化

これまでの日本では工業社会の発展に伴い、工場労働者を輩出すべく「知識を覚える」「単純作業に熟練する」「指示に従う」教育が重視されてきた。確かにこの様な教育観・学力観が過去には意味を為し、人々の生活を支えてきた。しかし、情報社会が到来し、「問題を発見し、解決法を設計する」「複雑な作業を単純作業に分類する」「対立を調整する」など新しい教育観・学力観へと転換が迫られている。知識を覚える必要がなくなるということではなく、知識をどのように整理しておけば、効果的に新しい知識を吸収し、蓄え、必要な時に引き出して用いることができるかを考え続けるこ

とが重要となる。このような状況に際して、「教員自主研究活動支援事業」「高校生学力向上推進事業」「高度な職業教育推進事業」「小中学校学力向上事業」「英語力向上事業」などの事業は、今後求められる教育観・学力観を育む重要なノウハウの伝達と情報共有の環境を実現することにつながると期待できる。とりわけ「芸術教育推進事業」「吹奏楽活動推進事業」は重要である。何故なら芸術や音楽は協働作業が前提となり、子どもたちの人間力を鍛える絶好の場であるからだ。更に芸術や音楽が育む創造性は日本が生産する商品・サービスのコモディティ化*2を防ぎ、新たな付加価値を産む原動力にもつながっていくはずである。

③ 地域を担う人材の育成

人口流出・人口減少が全国で加速し、その対策が教育の面からも求められている。「仕事がないから帰れない」「仕事がないので（地元を）でなければならぬ」という考えを転換させ、「仕事を創りたい」という起業家精神・アントレプレナーシップを持った子どもたちを育成する取組が、全国の教育現場で胎動を始めている。また、自分自身のふるさと・地域を理解し、様々なリソースをフル活用したまちづくりや既存事業の発展・起業などが今後さらに重要になってくる。「ふるさと教育推進事業」「福井フューチャーマイスター事業」「実践的農業教育強化事業」「高校生企業訪問推進事業」「古典学習支援事業」「地域と進める体験推進事業」「こども歴史文化館展示事業」「ふるさと文学館事業」「ふくいの和食教育推進事業」「ふくいの地場産学校給食推進事業」などの事業は、ふるさと・地域について教員・子どもたちが共に学び、これからの福井県を背負っていく人材育成につながるものになると期待できる。

昨年度と同様になるが、「いかなる未来を描くか」について継続的に議論していくことが重要である。今後の教育政策・施策を講ずる上で、自分(のキャリア)よし・他人(家族や地域の人たち)よし・周囲(故郷と福井県)よしの三方よしを如何に実現するかが鍵となる。

課題先進国日本における福井の取組は、やがて日本のみならず世界に発信できるものと期待している。今後、教育関係者や県内外大学等関係諸機関、そして地域との連携によって、日本のトップレベルの教育施策が維持され、ますます発展されることを期待している。

唱歌ふるさとの「志を果たして、いつの日か帰らん」が「志を果たしに、いつの日か帰らん」と歌える日まで。

*1 Volatility (変動性・不安定さ)、Uncertainty (不確実性・不確定さ)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性・不明確さ) という4つのキーワードの頭文字から取った言葉で、現代の経営環境や個人のキャリアを取り巻く状況を表現するキーワードとして使われている。

*2 コモディティ化とは、市場参入時に、高付加価値を持っていた商品の市場価値が低下、一般的な商品になること。

○ 福井県PTA連合会 会長 宇佐美 嘉一

平成27年に策定された「教育に関する大綱」と「教育振興基本計画」の対象期間の最終年度である令和元年度を迎えるにあたり、教育委員会だけでなく各種審議会で活発に討議され積極的な事業組織運営されていることが報告書より伺えます。教育委員の皆様をはじめ関係者の方々の幅広い事業へのご尽力に深く感謝いたします。この4年間、大綱の基本理念「ふるさと福井への誇りと愛着を持ち、自ら学び考え行動する力を育む 教育県・福井」の実現を目指し、基本的な方針の10項目に対して、各部局がそれぞれの観点から教育施策の実施に取り組み、大きな成果をあげておられることに敬意を表します。

しかし、教職員の不足と働き方改革、外国籍の児童生徒の増加など社会環境の多種多様な変化や、「新学習指導要領の実施」もあり、変革を求められる内容もあるように見受けられます。令和2年度には新たな「計画」が策定され、推進されていくと思いますが、その際、社会の変化や問題に対する検討および修正について、PTAなどの社会教育団体や関係団体、自治会連合会(地域)等から幅広い意見の聴取を行っていただき、迅速かつ的確な対応をお願いいたします。

この報告書の内容を踏まえ、前述の変化や問題点にも対応していただけるよう個別の私見を書かせていただきます。

- 1 「新学習指導要領」の実施にともなう教員の負担増など教育現場の諸問題に対するサポートや、保護者への周知と協力を得るための説明などに今まで以上に取り組んでいくことを期待します。
- 2 平成27年に開学しました高志中学校も令和元年度には5年目を迎えます。その5年間で得られた実績やデータなどを実践事例として情報を公表し、他の小中学校への運営に活かして頂くとともに、将来進学を選択肢の一つとしている子どもや保護者への情報開示を積極的に行っていただきたいと思えます。
- 3 現職の教員の約4割がここ十年で退職を迎える中、世間の高求人率や教員の勤務環境問題などによる教員採用選考試験の受験者数の減少と資質の低下が全国的にも問題視されており、福井県も例外ではありません。その問題に対応すべく業務改善による「教員の負担軽減」や、定年年齢の延長の早期実施を強くお願いします。
- 4 外国語教育では英語力向上に向けたALTの更なる積極的な活用をお願いするとともに、日本語教育を必要とする外国籍の子ども増加に対応した日本語指導スタッフなどの増配置やその保護者への教育に関する支援の充実をお願いします。
- 5 目まぐるしく進歩し続けるICT教育に対応すべく、各市町教育委員会と連携し県内小中学校に均一なICT環境が整備されることを切に願っております。

最後に、教育委員会において、子どもへの教育だけでなく、県民への社会教育・生涯学習・スポーツ・歴史文化まで幅広く事業を推進して頂いていますことに感謝申し上げます。実施事業で県民一人一人が学び成長し、心身ともに豊かなものになっていると思えます。また、子どもたちの健全な育成も実現されており、自己の夢の実現に向けて何歩も進んでいることと確信しています。ふるさと福井の担い手であり、世界に羽ばたき活躍してくれる子どもたちのために、今後も更なる施策の充実と一層のご支援をお願いいたします。